



●現状と課題

・国立公園（世界遺産登録地）の管理は様々な行政機関が異なる目的と意志を持って係わり、かつ、民間による各種事業も行われているが、それらをわかりやすく一覧して総合的に把握できる資料がない。特にハード事業については、自然環境・野生生物・景観に対して直接的な影響を及ぼしうるので、年々の事業を整理しておく必要がある。

・各種事業は、担当の関係機関や団体の観点からは検討されているが、事業の効果や自然環境などに与える影響の軽重などについて、第三者の立場から科学的、総合的に検証する仕組みがないのが現状である。また、もし仮に人為的影響と思われる問題が発生した時、迅速かつ幅広く過去を振り返って原因を特定し、素早い対応を行うことも困難である。

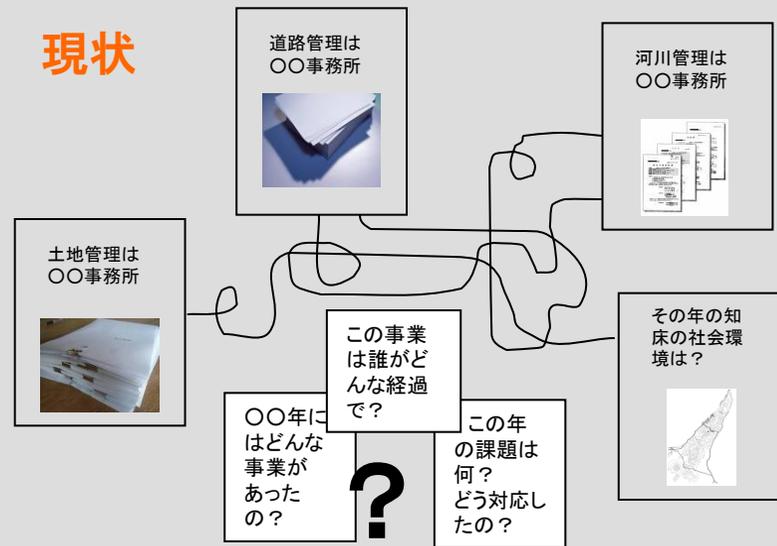
・特に、国立公園（世界遺産登録地）に影響を及ぼしうる周辺地域の事業に関しては、自然公園法等による許認可を伴わないため、資料は関係各機関・団体に散在しており、それらを把握することは一層困難である。

・知床世界自然遺産地域科学委員会（以下、科学委とする）やUNESCOからは、周辺地域も含めた人為的活動や社会環境に関する現況についても、モニタリングと評価、管理計画へのフィードバックが必要とされているが、十分に可能な状況にない。

●年次報告書の目的

- 1) 国立公園（世界遺産登録地）と当該地域へ影響を及ぼしうる周辺の事業をわかりやすく整理一覧し、広く国民にも公開する。
- 2) 自然環境の長期モニタリングとともに、人為的活動や社会環境の現況についても整理把握し、科学委へ報告することで管理計画・管理活動に関する科学的助言を求める。
- 3) UNESCO/IUCNへの定期的報告の作成に役立つ。
- 4) 関係機関・各種団体の効率的かつ効果的な役割分担・連携協力を進める。また、類似事業の重複など避ける。
- 5) 人為的影響が原因と疑われる問題が発生した際には、迅速に過去を振り返ることを可能とし、原因の究明や対策立案に役立つ。

現状



資料は複雑に散在、散逸。総合的把握はたいへん

今後



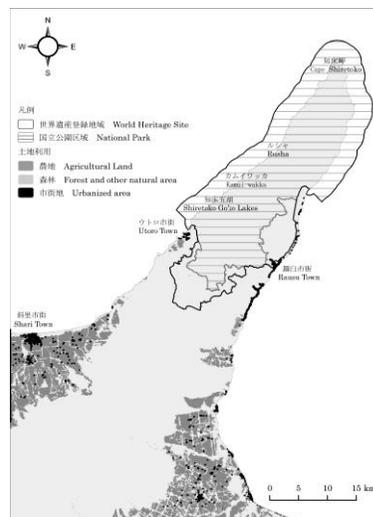
年次報告書に整理・一覧

- 現状・事業の総合的把握 → 適切な役割分担・連携に寄与
→ 科学委など第三者機関による助言
→ 国民への情報公開
- 長期モニタリング → 科学委・ユネスコへの報告、評価
- 問題発生時に過去を迅速にレビュー → 原因の究明と対策



事業名		
事業主体		
事業位置 (住所など)	土地所有区分	
	民地・公有地 (管理者名)	
国立公園	内 or 外	地種区分 ()
遺産地域	内 or 外	管理区分 (A地区、B地区など)
目的と理由	<p>注) ・必要かつ十分に記載のこと。 ・特に遺産地域内のもものでは、必要性の根拠についても具体的に。これはでは木で鼻をくくったような記載で、目的が不明瞭</p>	
事業概要 規模 工事期間	<p>注) ・事業の内容が具体的にわかるように記載のこと。 ・規模については、面積など具体的なデータを。</p> <p>希少猛禽類の生息地や営巣地周辺では、事業内容の記載の他、実際に事業が行われた期間の記載が重要。</p>	

過去からの 継続事業	有の場合、概要や年次報告書資料No. など記載：
当該年度関連事業	事業名・年次報告資料No. など
次年度以降予定	
自然環境 特徴 留意点 (環境省記載欄)	1km以内の希少動植物の状況、その他野生生物の重要生息地など



事業箇所: 上記半島図に丸印

位置図: 1/25000地形図
(注: ピンポイントで事業箇所把握するため、5万図などは不可)



平面図／構造図など

着工前環境写真

完工後 写真



【ハード事業】

●年次報告書において、ハード事業の報告を求める範囲

- 1) 知床国立公園、及び、知床世界遺産登録地内の事業
- 2) 知床国立公園、及び、知床世界遺産登録地に含まれる水系の流域における事業（公園外、登録地外含む）。

つまり、斜里側は金山川と遠音別川の両水系の分水嶺以北。羅臼側は春荊古丹川と陸志別川の両水系の分水嶺以北（境界は要確認）。

- 3) その他、知床国立公園、及び、知床世界遺産登録地の外であっても、特に公園や登録地へ影響を及ぼすことが懸念される事業。

●記載すべきハード事業の内容など

- 1) 施工面積50㎡を越える土木・建築・森林施業事業。ただし、国立公園・知床世界自然遺産地域の外の民家の建設や増改築については、自然植生地に新設するものや地形を大きく改変するものでない限り、不要とする。
- 2) 継続事業についても、毎年必ず記載すること。
- 3) 国立公園、及び、知床世界自然遺産地域の下流部に当たる斜里町ウトロ～真鯉、羅臼町ルサ以南の道路関係工事（法面工事、トンネル工事など）については、希少猛禽類の生息地に近接する地域が多い。これらは、従来記載されていたが、2014年2月時点の案では大幅に抜けていたので注意すること。

【その他】

●掲載項目について

- 1) サケマス、その他の水産資源の増養殖事業の実施箇所や実績も重要と思われる。
- 2) 5年に一度程度で良いが、斜里・羅臼両町の社会環境に関する資料の記載が必要。人口、産業別人口、漁船数、宿泊施設収容能力、等々。
- 3) 掲載項目の検討について

これまで掲載項目の漏れやブレが非常に目立っていた。それらを防ぐため、掲載項目選択方針を定め、毎年、作成開始前に関係者が集まった編集打合せ会議的なものを開催し、当該年度の報告書に載せるべきものをピックアップする。参集は、環境省・道・両町・知床財団など。

●図表・統計資料の記載に関する留意点

- 1) データの属性を理解することができる記載をすること。
例えば、・・・
・縦走利用者の推移グラフでは、大きな影響を与えてた硫黄山登山口の利用不可期間が記載されていない。
・サケマス釣り利用者数の推移データは、毎年同規模の事業者数、可動船数か？等々。
- 2) 当該図表単独で内容を理解するのに十分な説明文や凡例をつけること。

【科学委総評】

毎年の年次報告書に対して、科学委としてコメントをとりまとめ、地域連絡会議、報道機関などに対して発表する。